

欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読基準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限る)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なおお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paperのアブストラクト——200語以内

(ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

演習FORTRANとその応用

戸川隼人著 A 5・1月上旬刊・予価1,600円
計算機科学の教育面においても練達な著者が、頁単位・2色刷の見やすい構成で解説するFORTRAN演習書の決定版。簡単に覚えられて、すぐ役に立つ文法から始め、実用的、技巧的な方法の例を述べる。
主要目次 FORTRAN早わかり やさしい応用問題 総合演習-BASIC 他

演習 有限要素法

三好俊郎・白鳥正樹共著 A 5・1月上旬刊・予価1,800円
近年、有限要素法は広範な分野で利用されているが、初学者にとってポイントをついた演習書によって実際的な考え方、プログラムの組み方を体得することは有意義であろう。本書はこうした目的に沿った斬新な演習書。
主要目次 マトリックス代数 剛性マトリックス 弾性体の変形 有限要素法 他

FORTRAN

浦 昭二・戸川隼人共編/原田賢一著 定価980円

有限要素法へのガイド

戸川隼人著 A 5・定価1,650円

COBOL

浦 昭二・戸川隼人共編/大駒誠一著 定価980円

有限要素法概説

— 理工学における基礎と応用 —
菊地文雄著 A 5・定価1,600円

PASCALプログラミング

米田信夫・疋田輝雄共著 A 5・定価1,600円

有限要素法の実際

フェナー著/加川幸雄訳 A 5・定価1,800円

システム論的連想記憶

— 情報工学・心理学のために —

T.コホネン著/中谷和夫訳 最新刊・B 6・定価2,000円
「古くて、しかも最も新しいテーマ」である連想記憶をシステム論的方法で解明しようと試みるユニークな書。

月刊誌

数理科学

1月号 特集 こま コマ 独楽

坪井忠二・戸田盛和・若生康二郎他/830円

人間を考え 科学する 心理学総合誌

サイコロジ

1月号 特集 生きがいの心理

久野昭・笠原嘉・吉沢伝三郎他 /830円

研究会開催通知

(昭和55年12月15日～昭和56年1月31日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
電子装置設計技術	12月16日(火)	14:00～17:00	機械振興会館	前号参照
データベース管理システム	1月16日(金)	14:00～17:00	同 上	下記参照
人工知能と対話技法	1月17日(土)	10:00～17:00	阪 大	同 上
医 療 情 報 学	1月17日(土)	14:00～17:00	機械振興会館	同 上
コンピュータビジョン	1月22日(木)	11:00～17:00	国立民族学博物館	同 上
マイクロコンピュータ	1月26日(日)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上

◆ 第23回 データベース管理システム研究会

(主査：穂鷹良介，代表幹事：植村俊亮)

日 時 昭和56年1月16日(金) 午後2時～5時

会 場 機械振興会館 地下3階1号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，都営6号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷—東京タワー線東京タワー，等々力—東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車，Tel. 03 (434) 8211]

議 題 (1) 国文学文献資料のデータベース 宮澤 彰 (国文学研究資料館)

[概要] 文献データベースの中では最も複雑な構造をもったものの一つである和古書のデータベース化について述べる。

(2) データベース上のデータ処理のモデル 小林功武 (産能大)

[概要] データベース上の基本集合演算とその分解を考え，データベース管理システムに備えられるべきデータベース・ルーチンをあきらかにする。

(3) 文章表現を用いたデータベースの論理設計法 SDDM

穂鷹良介 (筑波大・社会工学)

[概要] 利用者の要求表現から関係データベースの正規形のファイル群に至る設計方法論を新しく提案する。

◆ 第19回 人工知能と対話技法研究会

(主査：田中幸吉，代表幹事：白井良明，田村進一)

日 時 昭和56年1月17日(土) 午前10時～午後5時

会 場 大阪大学基礎工学部 情報ゼミナール室 (G206)

[豊中市待兼町 1-1, 阪急宝塚線石橋下車，東南徒歩18分，または大阪空港よりタクシー 3km, Tel. 06 (844) 1151 内 4800]

議 題 (1) 階層的プロダクションシステム HIPS について

大上勝也，西山静男 (関西大)，溝口理一郎，角所 収 (阪大・産研)

[概要] 通常のプロダクションシステムに，人間の知識や思考法にみられる階層

性を導入することによって能力を向上させたシステム HIPS について述べる。

(2) 日本語理解システムにおける文脈処理のモデル 横尾英俊 (山形大・工)
〔概要〕 文相互のつながりを知って文脈処理を施す手順とそれをシミュレートするための日本語の簡略化について述べる。

(3) 知識表現 FKR-O とその機械翻訳への応用

杉本正勝, 沢井 進 (富士通)

〔概要〕 日本語から英語への言語構造変換規則を知識表現 FKR-O を用いて記述し, 日英機械翻訳実験を行った。

(4) 音声による日本語テキスト入力

白井克彦, 深沢良彰, 松浦 博, 久保田淳市, 小林哲則 (早大・理工)

〔概要〕 音声入力装置と簡単なキーボードを持つ日本語テキスト入力システムを試作したので, その概要について述べる。

(5) 見学

◆ 第 8 回 医療情報学研究会

(主査: 大島正光, 代表幹事: 稲田 紘, 溝口文雄, 開原成尨)

日 時 昭和 56 年 1 月 17 日 (土) 午後 2 時~5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階研修 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題 薬剤情報システム (5 件)

詳細は次号に掲載いたします。

◆ 第 10 回 コンピュータビジョン研究会

(主査: 福村晃夫, 代表幹事: 高木幹雄, 鳥脇純一郎, 田村秀行)

日 時 昭和 56 年 1 月 22 日 (木) 午前 11 時~午後 5 時

会 場 国立民族学博物館 2 階第 3 セミナー室

〔大阪府吹田市千里万国博記念公園内, 国鉄茨木駅, 阪急茨木市駅より阪急・近鉄バス, または千里中央駅, 阪急山田駅より阪急バス, いずれも“エキスポランド”行で日本庭園前(記念公園東口)下車, 徒歩約 15 分, Tel. 06 (876) 2151〕

議 題 (1) カラーディスプレイを用いた線画表示における Jag の除去

西田友是 (福山大・工), 中前栄八郎 (広島大・工)

〔概要〕 ラスタースキャン型ディスプレイを用いて線図形を表示した際に生じるギザギザ (Jag) の除去方法を提案する。

(2) 頭部 CT 像の 3 次元表示

萬 淳一, 横井茂樹, 鶴岡信治, 三宅康二 (三重大・工)

〔概要〕 多断面の頭部 CT 像データに対し, 円柱座標系を基本とする線画表示, 濃淡画表示により, 頭骨像・血腫像等の種々の 3 次元表示を試みる。

(3) 濃淡画像からの 3 次元形状の再構成

—Reflectance Map の応用—

池内克史 (電総研)

〔概要〕 画像中のある点における濃淡情報と面の法線方向の関係を表現する Reflectance Map を利用して, 被写体の 3 次元形状を再構成する手法につ

いて述べる。

- (4) 国立民族学博物館における対話型マルチユーザ画像処理システム
八村広三郎(国立民族学博物館), 長尾 真(京大・工), 中山和彦(筑波大)
〔概要〕 国立民族学博物館における画像処理システムの構成と特徴について述べる。
- (5) 上記システムの見学

*当日は, 研究会出席と言って「通用口」から入館して下さい。正面玄関から入ると一般入館者の入場料を取られます。なお, 博物館の一般展示見学用に昼休みを十分にとっております。

◆ 第14回 マイクロコンピュータ研究会

(主査: 森 亮一, 代表幹事: 田島守彦)

- 日 時 昭和56年1月26日(月) 午後1時半~5時
会 場 機械振興会館 地下3階1号室(所在地は前記参照)
- 議 題 (1) 16ビット SOS マイクロプロセッサ 岩村 淳(東芝総研)
〔概要〕 SOS 技術を用い CMOS と NMOS を組み合わせて, 高速高性能, 低消費電力のマイクロコンピュータを完成した。
- (2) 自動車のマイクロプロセッサ制御システム 長瀬 宏, 五十嵐伊勢美(豊田中央研究所)
〔概要〕 エンジン制御を中心に, 自動車のマイクロプロセッサ制御システムの現状と今後の動向について報告する。
- (3) マイクロコンピュータの実時間表示超音波診断装置 和泉雅喜(島津製作所)
〔概要〕 超音波診断装置をマイクロコンピュータで制御することにより, 多機能化および操作性, 信頼性向上を試みた。
- (4) マイクロコンピュータを内蔵した体表面心電図 谷島一喜, 田中 博, 木下重博, 古川俊之(東大・医)
〔概要〕 胸壁面上の96点より誘導した心電位を, 二次元画像として表示する体表面電位図測定表示システムを構成した。

論文賞候補の論文推薦のお願い

昭和 55 年度論文賞の候補論文を下記によりご推薦下さいますようお願いいたします。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

昭和 54 年 10 月から 55 年 9 月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 20 No. 5～Vol. 21 No. 4) および「Journal of Information Processing」Vol. 2 No. 3～Vol. 3 No. 3) に発表された論文の中から 1 編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締切日

昭和 56 年 1 月 31 日 (土)

表彰規程 (抜粋)

第 2 章 論文賞

1. 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
2. 表彰する論文は、原則として毎年 3 編とするが、編数は事情により変更することができる。
3. 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の 10 月から前年の 9 月までの間に発表されたものであることを要する。
4. 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
5. 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
6. 論文賞は、賞状および賞金とする。
7. 賞金は、論文一編につき 30,000 円とする。

推薦方法

官製はがきに、推薦する論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名をもれなく記入のうえ、本会論文賞係宛お送り下さい。